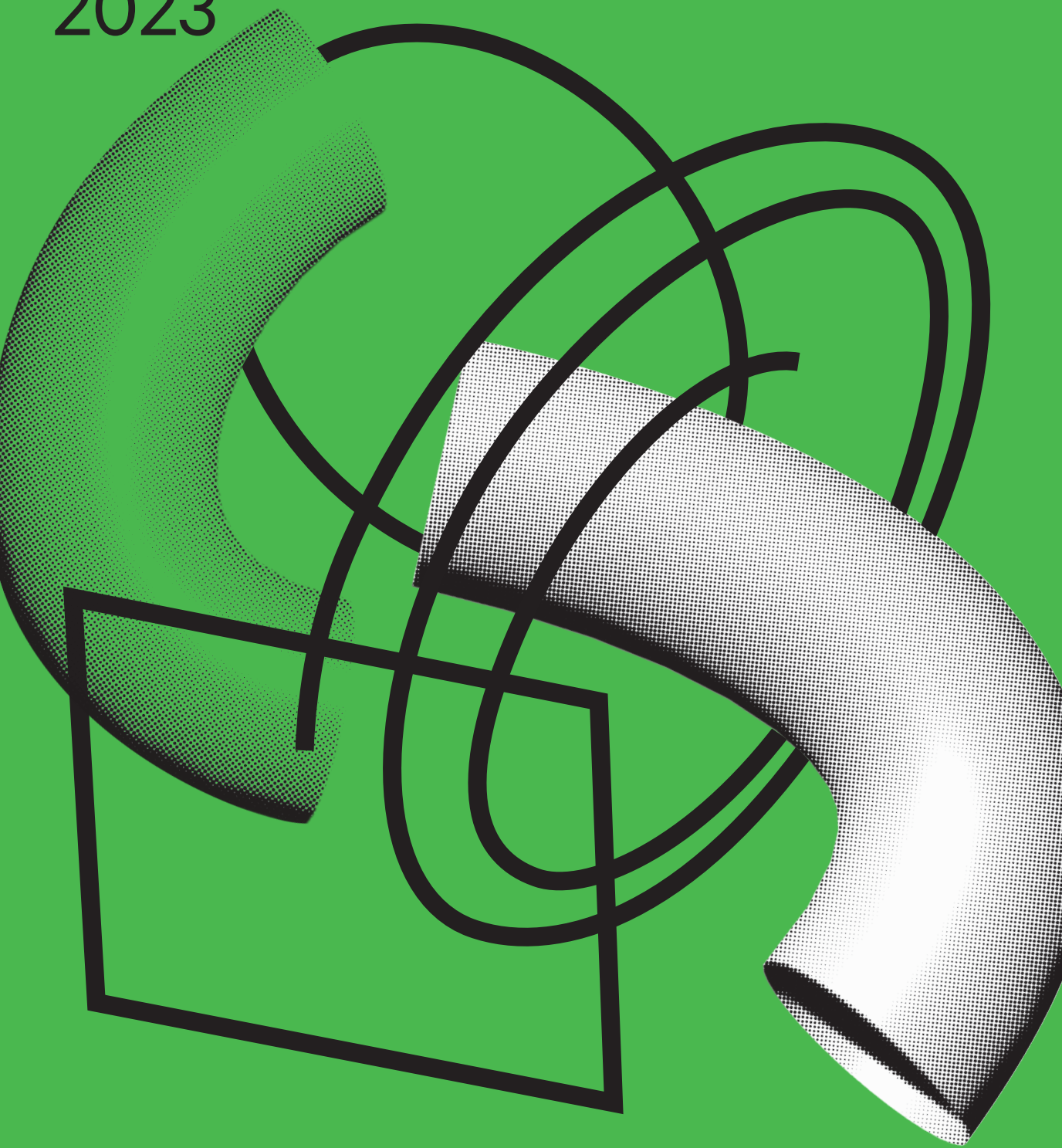
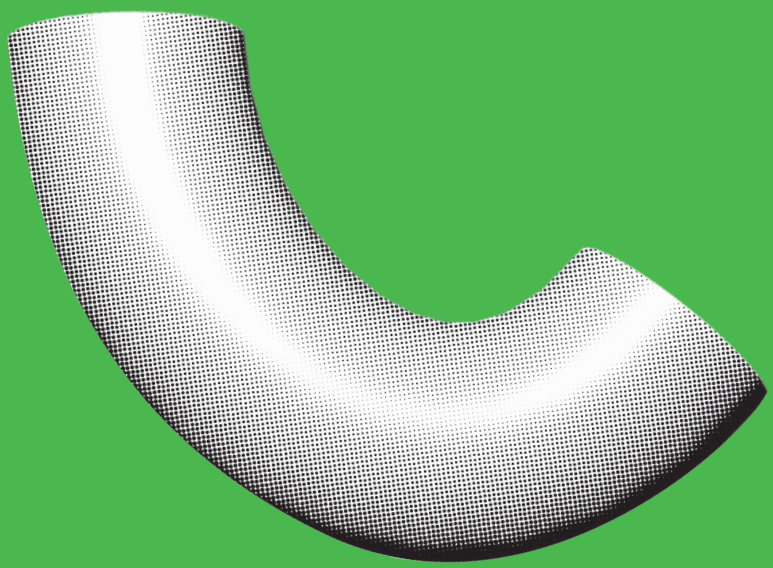
IAMAS
RCIC Annual Report
2023



IAMAS産業文化研究センター　年次報告書

IAMAS RCIC Annual Report 2023



RCICと3つの役割について 04

地域連携・産学官連携活動 06

イアマスこどもだいがく ／ 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館 ／ 連携までの流れ

文化活動 12

岐阜おおがきビエンナーレ2023 ／ IAMAS ARTIST FILE #09 方法主義

2023年度のRCICの活動を振り返って 14

2023年度IAMASの活動事例 16

2023年度活動リスト 20

各活動情報等については、本センター Web サイトでも常時公開しており、より詳細な情報や、紙面ではお見せできない動画等のコンテンツもご覧いただけます。
本書の各ページに掲載しているQRコードから、それぞれの活動関連ページにアクセスいただくことができます。

RCIC Web サイトはこちら

過去の年次報告書はこちら

産業文化研究センター（Research Center for Industrial Culture 通称RCIC）は2011年度より開設されたIAMASの附置研究機関です。
産業文化に関する学際的・総合的な研究を行うとともに、学外の諸機関との連携を図りつつ、本学の社会的機能を維持・発展させることを目的とし、以下の3つを軸として活動しています。



地域連携・
産学官連携活動



文化活動



広報・
情報アーカイブ活動

IAMAS の活動の社会的な展開を目指す

地域連携・産学官連携活動

IAMASの教育研究活動を広く社会に周知し、また、研究成果を活かした産学官連携や地域連携を行っています。
県内外の企業、自治体や教育機関、非営利団体や地域コミュニティ等とさまざまな連携を試行しています。

- 学内シーズ（技術・デザイン等）や研究成果の紹介
- 教育研究機関との研究連携
- 営利企業や非営利団体、自治体との共同研究や受託研究
- 自治体や教育機関との連携による新しい教育事業の推進
- 県内研究機関とのネットワーク構築



IAMAS の活動を広く社会に広めるための

文化活動

教育･文化機関とのネットワークを築き、学内での展覧会･交流会やイベント等、
さまざまな文化的な催しの運営・補助を行っています。
また、大小さまざまなレクチャーやシンポジウムの企画・運営も行っています。

- 卒業制作展の監修
- 学外連携事業の企画・運営
- IAMASオープンハウスの監修
- レクチャーやシンポジウム等の企画・運営

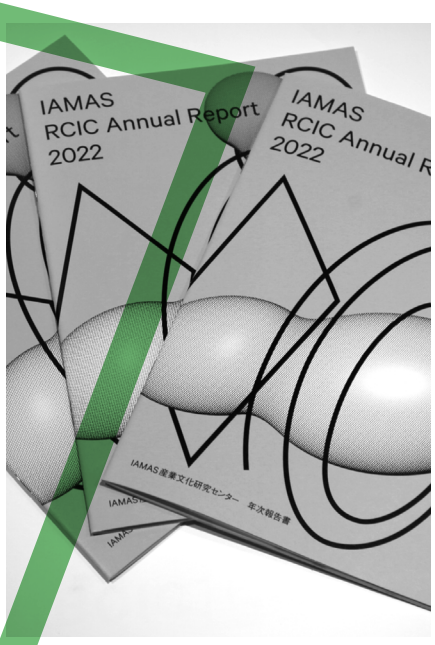


教育・文化的な貢献や情報発信を目指した

広報・情報アーカイブ活動

IAMAS Webサイトの運営、広報物の制作・管理、アーカイブ機能としての
展覧会カタログ等の刊行物制作、学内イベントの記録構築等を行っています。
また、県内の研究機関・研究者とのネットワーク構築や、IAMAS卒業生との
連携・協力等によるIAMASネットワークの強化にも力を入れています。

- Webサイトの運営
- SNSによる情報発信
- 広報物の企画制作・管理
- 展覧会カタログ等の刊行物の企画・制作・監修
- 学内の研究成果報告を目的とした展示会の企画・運営
- 教員や学生の地域連携・産学官連携活動に関する調査と報告
- 卒業生を対象とした連携企画の運営



地域連携・産学官連携活動

Feature **イアマスこどもだいがく 2023**

IAMASでは、芸術や科学といった領域を越えた新しい「もの」や「こと」を創造する研究、教育を行っている。この理念を小学生向けに展開し、いわゆる図画工作や科学実験といった枠組みを超えた思想や発想の育成を目指して、2017年から大垣市と連携してユニークなワークショップを展開している。 今年はプログラミングを体感するワークショップ「ゴムの森」を企画、運営した。







上：ワークショップに参加した子どもたちが協働して
「ゴムの森」を作り上げていく様子
下左：身体を使って「ゴムの森」をすり抜け、
複雑かつゲーム性のある「遊び」とは何かを掴んでいく様子
下右 :IAMAS学生によるレクチャー

メディア表現を活用した体験型学習のデザイン「イアマスこどもだいがく2023」



教育用マイコンボード「micro:bit」を
プログラミングする子どもたちの様子

今年度からスタートした博士前期課程プロジェクト演習「Collaborative Design Research Project」（担当教員：鈴木宣也教授、赤羽亨教授）の一環として、ワークショップの企画立案、運営、広報を行った。

ワークショップ「ゴムの森」は、床と天井に張り巡らされたゴムを子どもたちが通り抜けることが遊びの基本となる。次のステップとして、子どもたち自身がゴムを束ね、結束マジックテープで結ぶことで、通り抜けることのゲーム性を高めていく。

今回のワークショップは、低学年向けの第一部（小学校1年生〜4年生）と、高学年向け（小学校5年生、6年生）の第二部にわけ、年齢に合わせてより深い学びができるようデザインした。

第一部では、ゴムを束ね、通り抜けることを繰り返し遊ぶことで、計画と実行という、プログラミングの考え方を身体で体感し、楽しむことに取り組んでもらった。第二部では、第一部の体感遊びに加え、教育用マイコンボード「micro:bit」（マイクロビット）をプログラミングし、「ゴムの森」に結びつけることで、遊びをアップグレードする体験にも取り組んでもらった。

また、「ゴムの森」運営にあたっては、学生によるレクチャーも取り入れ、「プログラミング思考」が決して特別なものではなく、子どもたちの身の回りにある考え方であることを知ってもらい、ワークショップ後にも関心が続いていくような工夫を行った。

■ IAMASの役割

2016年に大垣市情報企画課より、子ども向けIT教育についてIAMASへの協力依頼があったことが本連携を企画する契機となった。大垣市との打ち合わせをもとに、前年度講座の成果や課題を踏まえながら本学のプロジェクト研究を子ども向けに展開した。また、広報物の制作等も本学が担当した。

■ 連携先

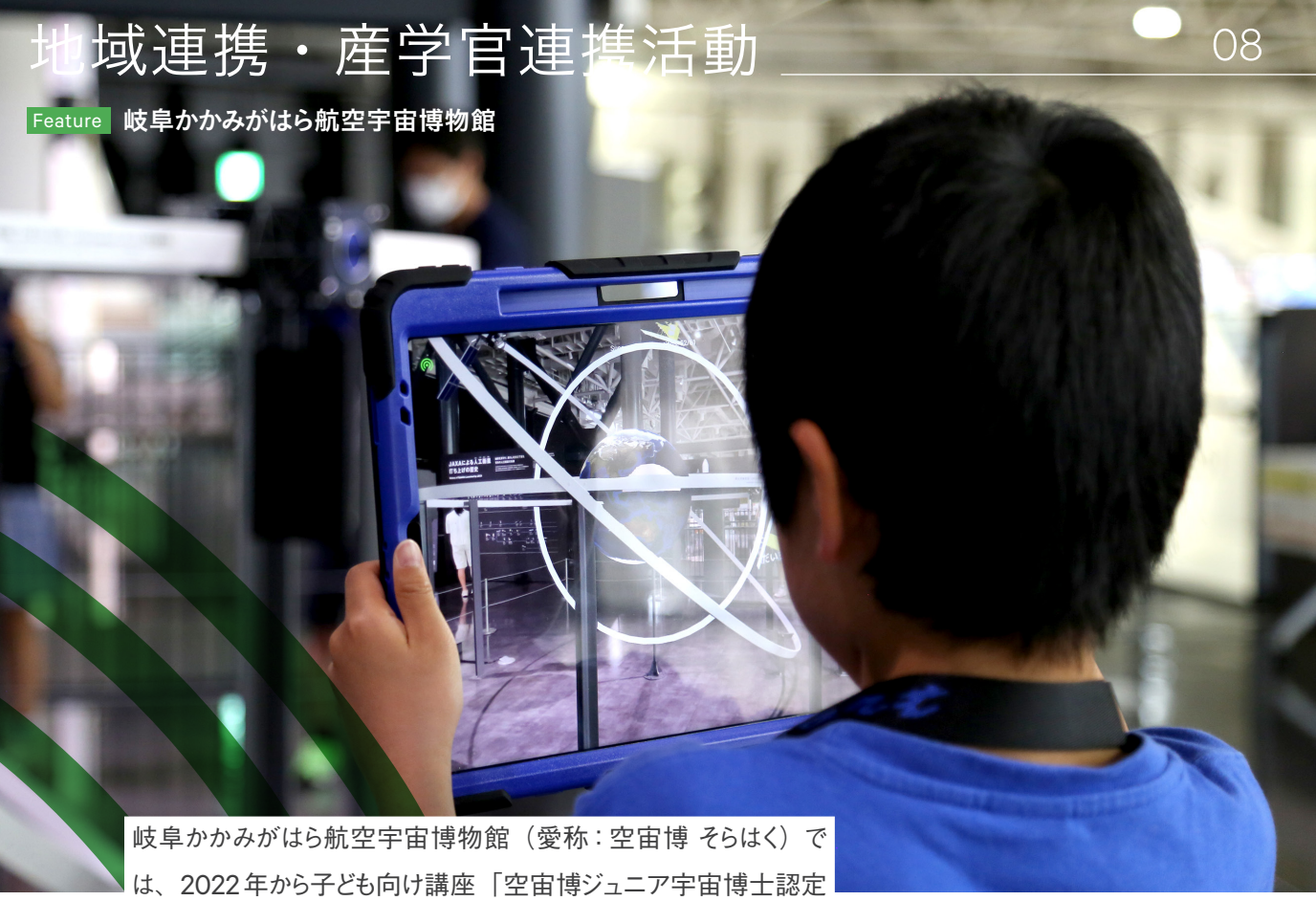
大垣市

■ 担当教職員と協力者

運営：岡本悠里（IAMAS M1） 菊田佳恵（IAMAS M1） 橋本正隆（IAMAS M1） 三波蒼菜(IAMAS M1)／協力：鈴木宣也（IAMAS教授・学長） 赤羽 亨（IAMAS教授・RCICセンター長） 高森順子（RCIC研究員）／映像撮影：船山哲郎（RCIC研究員）／写真撮影：高森順子（RCIC研究員）／デザイン：大山千尋(IAMAS卒業生)

■ 詳細情報

Feature 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館



岐阜かかみがはら航空宇宙博物館（愛称：空宙博 そらはく）では、2022年から子ども向け講座「空宙博ジュニア宇宙博士認定講座」のデザインをIAMASの施設「イノベーション工房」およびIAMAS卒業生のデザイナーと連携して展開している。今年度は、学習テーマである「人工衛星」をモチーフに、トータルデザインを意識した教材の開発に取り組んだ。また、今年度から新たにARを通して学習・鑑賞するシステムを設計し、空宙博と協働で子どもたちが体験的に学習する展示空間のあり方を検討した。

上：展示物にiPadをかざし、AR上の人工衛星の動きを観察
下左：空宙博学芸員によるAR教材の使い方に関するレクチャーの様子
下右：AR教材を通して得られた気づきをワークシートに記入





子ども向け講座「空宙博ジュニア宇宙博士認定講座」のトータルデザインとAR教材コンテンツ活用に関する研究

講座のトータルデザインを通して、参加者の学習意欲を高められるような環境の提供を目指すとともに、IAMAS のデザイン研究を実践することで、そのプロセス、及び効果について考察することを目的に運営した。

今回も、空宙博・本学卒業生のデザイナーおよびイノベーション工房とともに、小学校高学年から中学生の子どもたちが学びや達成感を得られるよう、全 6 回の講座を通して探索的に活用できる教材を製作した。受講した子どもたちからは、デザイン性の高い教材によって、講座への期待感が高まったというコメントが寄せられた。また、各回の講座で得た気づきをワークシートにまとめていく過程を経ることによって、積極的かつ探索的に学ぶ様子も見られた。

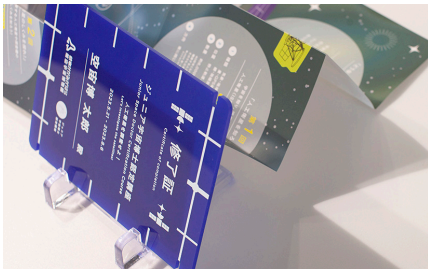
修了証のデザインにあたっては、参加した子どもたちに、ワークショップ終了後も航空宇宙についての学びを続けてほしい意図を込めるため、航空宇宙工学者の三浦公亮によって考案された「ミウラ折り」を採用した。「ミウラ折り」に綴じられた紙面に講座を通じて学んだことの要点と、人工衛星のイメージを展開し、開く／閉じるという動きのあるものとして修了証を制作した。

また、今年度から子ども向け講座のトータルデザインのひとつとして、空宙博の展示を構成する人工衛星を AR を通して学習・鑑賞するシステムを設計し、空宙博と協働で子どもたちが体験的に学習する展示空間のあり方を検討した。

開発した AR 教材は、人工衛星の軌道を示した展示物に、アプリを起動した iPad をかざすと、衛星が軌道を描いて周回する様子が 3DCG で表示されるものである。今回は常設展示として運用する前段階として、子ども向け講座において短時間での運用を行った。参加した子どもたちは、様々な角度から 7 つの人工衛星が周回する様子を観察し、ワークシートに気づいたことを書くなど、探索的な学習の一歩となる機会を生み出していた。

今後は、AR 教材のアップデートとともに、常設での展開の方法を検討している。







上：制作した合格証などのワークシート類と修了証
中：修了証は「ミウラ折り」を採用し、動きのあるデザインとした
下：合格証は参加するごとにもらえる人工衛星のシールを貼る場所がガイドされており、コンプリートする楽しさを演出

■ 連携先

岐阜かかみがはら航空宇宙博物館

■ 担当教職員と協力者

トータルデザイン：大山千尋（IAMAS 卒業生）／ 修了証デザイン・制作：桝井孝暢（IAMAS イノベーション工房）／ AR 開発：伏田昌弘（東京コンピュータサービス株式会社）／ 運営：赤羽 亨（IAMAS 教授・RCIC センター長） 高森順子（RCIC 研究員）／ 撮影：福島諭（RCIC 研究員） 高森順子（RCIC 研究員）

■ 詳細情報

連携までの流れ

IAMASでは、県内外の企業、自治体や教育機関、非営利団体や地域コミュニティ等と連携することで、本学の情報科学技術と地域文化研究の成果を深化させるとともに、連携の成果によって地域社会へ貢献することを推進しています。附置機関である産業文化研究センターが、連携の相談から、教員やプロジェクトとのコーディネート、研究や事業契約の締結等のサポートを行っています。

企業　自治体　教育機関　非営利団体　地域コミュニティ

RCIC（産業文化研究センター）へ連絡

相談

担当研究者との相談を経て、連携内容を決定

研究契約の締結

共同研究

受託研究

その他

※共同研究や受託研究に該当しない連携もあります。

報告書・成果納品

知的財産

※連携の方法によって知的財産権の扱いが異なります。

共同研究　企業等の研究員と本学の教員とが、共通の課題について対等の立場で研究を行う制度です。これに要する経費は双方で負担します。研究は、それぞれの場において進めます。企業研究員を学内に受け入れての共同研究も可能です。双方の研究員が共同で行った発明等にかかる特許権等については、企業等は優先的実施権を行使できます。

受託研究　企業等からの委託を受けて、本学の教員が研究を実施し、その結果を報告する制度です。これに要する経費は委託者の負担となります。民間企業等からの研究員の派遣は不要です。特許権等は原則として本学に帰属しますが、優先的実施権を行使できます。



ぎふメディアコスモスとRCICの共同研究「市民ワークショプを通した
屋外用メディアラボの製作プロセスに関する実践的研究」における内部ワークショップの様子



「メディコス広場　メディアラボ製作ワークショップ」当日の様子
（2023年10月28日、11月26日の2日間に亘って開催）

Feature 岐阜おおがきビエンナーレ 2023〈方法／ Method〉

Method
方法

岐阜おおがきビエンナーレ2023 〈方法／ Method〉は、同時期に岐阜県美術館で開催された展覧会「〈方法主義芸術〉―規則・解釈・(反)身体」と連動する。美術家の中ザワヒデキが提唱し、本学教員の三輪眞弘と松井茂がメンバーとして2000-2004 年に活動した芸術運動「方法」について、その活動の概要を論じる中ザワヒデキ自らの基調講演によって幕が開けた。「方法絵画・方法詩・方法音楽　～方法はポストメディウムではない～」と題された氏の講演では、メディウムへの還元により諸芸術を分断したフォーマリズムを批判し、方法への還元を唱える等芸術運動の意義について理解が深まった。そして、作品のリアライゼーションの問題や、方法のための方法という問題について、批判的に乗り越えた「新・方法」を紹介した。

岡田暁生・三輪眞弘・吉岡洋による鼎談「真理と方法、再び」では、哲学における「方法」を「真理」と対立する概念として考察することを通じて、科学至上主義における方法、高度テクノロジーが支配する現代における方法のあり方を思考した。

方法詩の提唱者である篠原資明と方法詩人・松井茂の対談「方法と瞑想」では、松井が自作にも触れながら篠原の詩作について丁寧に導入した。篠原自身による「超絶短詩」「まぶさび詩」についてのレクチャーを通じて、氏独特な美学や瞑想ついて理解が深まった。

「方法」の幕引きにも関わる「方法マシン」は、身体を通じて方法作品を実現する団体である。最後のセッションである「方法マシン同窓会」では、元メンバーより四名が登壇し、その活動の全貌、および、マシンとなる境地や経験が明らかにされた。



手前：中ザワヒデキ《40048 枚の硬貨から成る 89736 円（金額第四二番）》（2023）部分

「方法」への四つのアプローチ：諸芸術の連携、真理、瞑想、作品のリアライゼーション







上：中ザワヒデキによる基調講演「方法絵画・方法詩・方法音楽　～方法主義はポストメディウムではない～」
中：篠原資明、松井茂との対談「方法と瞑想」にて
下：「方法マシン同窓会　来れ、集え、マシンとなれ～!」にて

■ 開催詳細・場所

2023.12.7 — 10
ソフトピアジャパン・センタービル
シンポジウム：4 階 ホール A
「方法」資料・作品展示：3 階 ギャラリー 1

■ クレジット

主催：情報科学芸術大学院大学［IAMAS］　岐阜県大垣市 ／ 助成：公益財団法人花王芸術・科学財団 ／ 協力：IAMASタイムベースドメディア・プロジェクト ／ 配信：樋口聡一郎 ／ 録音・録画：圓羽山圓（蛍光資料）／ 広報デザイン：岡澤理奈 ／ 総合ディレクター：大久保美紀

■ 詳細情報

Feature **IAMAS ARTIST FILE #09〈方法主義芸術〉ー 規則・解釈・(反) 身体**



三輪眞弘《またりさま人形》(2003)、ほか

絵画・詩・音楽を連携する「方法」は、ポストモダニズム以降の芸術をいかに見るか

第9回目となるIAMAS ARTIST FILEでは、三輪眞弘退任記念展を兼ね、三輪が2000年代初頭に積極的に関わり、「逆シミュレーション音楽」の処女作を世に送り出す契機となった「方法主義」に着目した。「方法」(2000-2004)は、美術家の中ザワヒデキが提唱し、音楽家の足立智美、詩人の松井茂(IAMAS)が当初メンバーとして参加した芸術運動である。ポストモダニズムが蔓延る同時代の芸術的状況に対し、メディウムへの還元により諸芸術を分断した20世紀中葉のフォーマリズムを批判し、方法への還元の重要性を説く。

展覧会の章立ては四名の作家の名から成る。中ザワヒデキは、「文字座標型絵画」、「盤上布石型絵画」をはじめとする代表的な方法作品群を出展。足立智美は、音楽の手法による視覚作品《The Theme of “pig with mic,” 10 variations and 5 enlargements》や立体楽譜としての《方法音楽第九番「線の消尽」》を出品。《純粋詩》《量子詩》の作者である松井茂は、作品のリアライゼーションを企画側に委ねたため、スタンプ・プリント・プロジェクションという異なる形での展示となった。三輪作品は《すべての時間, ハープのための》や《またりさま》をはじめとする記録映像を8点、編集されたプロジェクションプログラムとして6点、「方法」に関連する作品を計14点出展した。中央には《またりさま人形》が君臨し、三輪音楽芸術についての充実した資料展示を伴い、鑑賞者を満足させた。

本展が「方法」の担い手たちが追究した真摯な活動を真っ向から受け止め、自信の問題へ昇華する鑑賞者と出会いえたことを願う。

■ 開催時期・場所

2023.10.11 — 12.24

岐阜県美術館[展示室2]

■ クレジット

主催:岐阜県美術館　情報科学芸術大学院大学[IAMAS] ／ 助成:公益財団法人花王芸術・科学財団 ／ 協力:IAMASタイムベースドメディア・プロジェクト ／ 設営・再制作:山田聡 ／ 会場設計補助・什器設計施工:門田健嗣 ／ 広報デザイン:岡澤理奈 ／ 記録撮影:小濱史雄 ／ 録音・録画:圜羽山圜(蛍光資料) ／ 企画:西山恒彦(岐阜県美術館)　大久保美紀(IAMAS 准教授)

■ 詳細情報

2023年度のRCICの活動を振り返って

2023年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限がほぼ無くなり、これまでオンラインで行われてきた事業やイベントが、以前のように対面で行われるようになりました。実際に、本年度の活動リストを確認すると、教員の展示の機会やイベント、外部との連携活動、対面での学会や研究会の実施などが増加してきています。産業文化研究センター（Research Center for Industrial Culture 通称RCIC）が行う「地域連携・産学官連携活動」、「文化活動」、「広報・情報アーカイブ活動」の3つの活動についても、その多くが対面で実施されました。

「IAMAS ARTIST FILE #09〈方法主義芸術〉―規則・解釈・（反）身体」と連動して開催された、「岐阜おおがきビエンナーレ2023　〈方法／ Method〉」は今年度の「文化活動」を代表するものとなりました。

「地域連携・産学官連携活動」では、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館と共同で、学習資源を活用した学習環境デザインに関する研究 、博物館での教育普及活動におけるAR教材コンテンツ活用に関する研究 、博物館におけるXR技術の適用に関する研究の3つの共同研究に取り組みました。
他にも、岐阜市（みんなの森 メディアコスモス）と、市民ワークショップを通した「みんなの森 ぎふメディアコスモス」屋外用メディアラボの製作プロセスに関する実践的研究を行うほか、大垣市とメディア表現を活用した体験型学習をデザインし、昨年度に引き続き「イアマスこどもだいがく」を開催しました。
このように、今年度の目標として掲げていた共同研究や地域連携については拡充を図ることができました。

「広報・情報アーカイブ活動」については、Webサイトのリニューアルに取り組みました。一方で、展示活動については、展示場所の選定に苦労し、昨年度と比較するとやや課題が残る結果となりました。来年度以降は、現在共同研究で開発中の音声ガイドアプリ「Onsei AR」を用いた新たな展示広報を模索していきたいと考えています。

RCIC センター長
赤羽 亨

RCIC のスタッフ紹介

センター長を含む教員 3 名、研究員 2 名、情報支援専門職員 1 名、技術支援専門職員 1 名で運営しています。



赤羽 亨（Kyo Akabane）
RCIC センター長 / IAMAS 教授
インタラクションデザインの観点から、メディアテクノロジーを活用した協働デザインのための環境構築に関する実践的な研究を行っている。



平林 真実（Masami Hirabayashi）
IAMAS 教授
コミュニケーションシステムという観点から研究を実施。近年はNxPC.Lab名義の音楽イベントを起点に音楽体験の拡張をテーマとした研究を行っている。



前田 真二郎（Shinjiro Maeda）
IAMAS 教授
映像作家として撮影行為を基盤とした映像表現を研究。舞台、音楽、美術領域の作家との協働を積極的に展開し、展覧会等の企画運営も担当する。



福島 諭（Satoshii Fukushimai）
研究員（2023年9月〜）
RCICでは文化活動を担当し、学内外のIAMASに関わる展覧会等の企画運営や広報媒体のディレクションなどを行う。専門はアルゴリズミック・コンポジション。



船山 哲郎（Tetsuro Funayama）
研究員（2023年4月〜8月）
RCICでは文化活動を担当し、在職中はIAMAS OPEN HOUSE 2023の企画運営を行った。専門は空間デザイン。



高森 順子（Junko Takamorii）
研究員
RCICでは主に学外の企業や自治体との共同研究・地域連携ネットワーク構築といった連携推進業務を担当する。専門はグループ・ダイナミックス。



伊藤 晶子（Shoko Ito）
情報支援専門職員
RCICでは主に大学院の広報活動を担当。IAMAS関連のWEBの企画・制作・運営を行う。専門は情報デザイン。



桝井 孝暢（Takanobu Masui）
技術支援専門職員
イノベーション工房の運営を担当し、デジタルファブリケーションを活用した研究・連携支援を行う。専門は建築設計のコンピュテーショナルデザイン。

RCICメンバーレポート

RCIC では、IAMAS の広報、及び今後の RCIC の活動に向けたリサーチの一環として、本学の多様な取り組みの様子や、学内外のユニークで先進的な取り組みを行っている方々の活動等をレポート形式で紹介しています。
レポートは本学 Web サイトで常時公開しており、下記 QR コードからもご覧いただけます。

お問い合わせ

RCIC では IAMAS との連携に関するご相談を受け付けております。ご希望の方は、メール、または下記お問い合わせフォームよりご連絡ください。

メール：rcic@ml.iamas.ac.jp

お問い合わせフォーム

サントリーホール サマーフェスティバル 2023 ザ・プロデューサー・シリーズ

三輪眞弘がひらく「ありえるかもしれない、ガムラン」

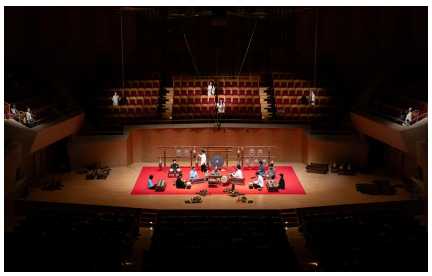
実施期間　2023.08.25 — 08.27

サントリーホールを舞台に作曲家、三輪眞弘がガムラン音楽で現代社会の未来を占う。



パラグナ・グループによる藤枝守の「ガムラン曼荼羅 I」、舞踏：浅野瑞穂
（撮影：飯田耕治　提供：サントリーホール）

アート・コレクティヴ KITA とガムラングループ マルガサリを迎え、従来のコンサート形式だけでなく、「プロジェクト型」のコンサート「ひらかれた家」を同時開催することで「ガムランのコスモロジー」を表現。サントリーホールは幕間のない三日間、ガムランの響き渡る広場に変わり、コンサートとプロジェクトの出演者や観客／聴衆とが交差する未来の「ありえるかもしれない」音楽祭が行われた。









左上：大ホール「Music in the Universe」宮内康乃作曲『SinRa』初演
右上：川村亘平斎による影絵パフォーマンス・イベント
左下：「ありえないかもしれないガムラン・コンサート」でみんなで綱引き!
右下：ジャワ舞踊の佐久間新と彼自身のアバターが共演する三輪眞弘の「礼拝」（演奏は相愛大学学生有志）
（撮影:池上直哉　提供:サントリーホール）

■ 担当教員
三輪眞弘（IAMAS 教授）

展覧会「ファルマコンの再生：生の祭壇」

実施期間　2023.11.02 — 11.19

アートはエコロジーを思考するか？
- フロリアン・ガデンと堀園実の協奏 -

日仏の作家と共に医療・エコロジー領域における芸術的アプローチを模索するキュレーター・大久保美紀は、七回目となる展覧会「ファルマコン」をアトリエみつしま（京都）で開催した。薬＝毒を同時に意味する両義的概念〈ファルマコン〉の再考を通じて、現代社会における諸問題の打開を模索する。展覧会では、漂流物を象った堀の彫刻作品、生の複雑な関係・都市生活・詩的空想を緻密に描いたガデンの絵画、本展のために構想された映像インスタレーションが、あらゆる生命に捧げられる「生の祭壇」として現れた。



展示風景

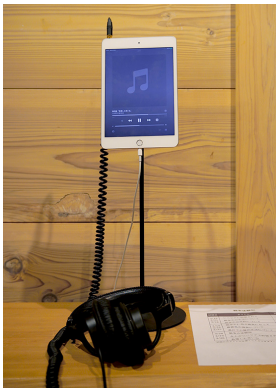
■ 担当教員
大久保美紀（IAMAS 准教授）

池田町有線放送を考える

実施期間　2022.08 — 2023.03

終わりから始まる：
地域メディアの保存と活用による次世代への接続





左：番組音声を記録したテープ（オープンリール）
右：選定された番組の視聴ブース（iPad＋ヘッドフォン）

半世紀にわたり地域の暮らしや文化を伝えてきた、池田町有線放送（岐阜県揖斐郡）が2017年に幕を閉じた。残された貴重な番組音声をデジタル化し、番組制作の資料と合わせて活用方法を検討するため、新たな公開の機会として展示を企画した。地域の記憶と町民のアイデンティティを形成する重要な役割を担っていた地域メディアの終焉を乗り越え、テクノロジーによって保存と活用を検討した。町の文化と歴史を次世代へ接続する契機となるだろう。

■ 担当教員
金山智子（IAMAS 教授）　瀬川晃（IAMAS 准教授）
前林明次（IAMAS 教授）　山田晃嗣（IAMAS 教授）

■ 担当プロジェクト
金山研究室｜場所・感覚・メディア

glow – in progress

実施期間　2023.11.17 — 11.29



展示風景

展示を通じた新たな表現研究の可能性の提案

新宿眼科画廊地下スペースにて、展覧会「glow – in progress」を開催した。メディアテクノロジーを介在させた表現研究を中心に、研究成果やそこから生まれた新たな表現についての展示を行った。表現研究を「体験可能」な状態で提示し、その体験を起点にした議論の場とすることを通して、新たな協働の可能性を発見する場とすることを目指した。



展覧会チラシ





上：VR アーカイブビューワー プロトタイプ I
（池田泰教、赤羽 亨、飛谷謙介、横山 徹）
下：N.E.W.S（横山 徹、飛谷謙介、赤羽 亨）

■ 担当教員

赤羽 亨（IAMAS 教授）

TOKYO MELODY 1984　坂本龍一図書資料展

実施期間　2023.5.29 — 7.24



展示風景

1984、85年に刊行された雑誌――音楽、美術、文芸の専門誌やミニコミ誌、総合誌、週刊誌や大衆誌など――と書籍を振り返ることで、坂本が実践したメディア・パフォーマンスを検証。誌面には、領域横断としてのパフォーマンス、脱構築への期待、バブル目前、未だローカルな性格をとどめながら情報都市化する「東京」の時代感覚が溢れる。1984年に来日したナム・ジュン・パイクやローリー・アンダーソンとの交流、晩年まで継続される浅田彰とのコラボレーションが始まる。

マスメディアの中の芸術家、坂本龍一の表現と思想を図書資料で体感する展覧会

■ 担当教員

松井茂（IAMAS教授）　渡辺基尚（IAMAS司書）

タレスの刻印@藤橋城

実施期間　2023.08.11 — 08.20

自然と人為の動きから星の軌跡を刻み、光が生まれた空に還す

独自の撮影装置を使って夜空の星を長時間露光した作品「タレスの刻印」を昨年はギャラリーで展示した。それは全周囲映像を伴う人工的な展示であったのに対して、今回は自然光の中で風景を透かして見るようにした。夜には実際の撮影過程を体験できる鑑賞会も行った。これらは何より4年以上に渡って撮影を続けた地に作品を奉納することであった。この地域は山々が街の光を遮り、無数の星が瞬く「星のふる里」と呼ばれている。





左：展示風景
右：展覧会の告知

■ 担当教員

赤松正行（IAMAS教授）

2023年度活動リスト

名称	開催時期	場所・主催・共催・出版社・その他	担当教職員	カテゴリー
NxPC.Live Vol.67	2023.02.24	ソフトピアジャパンセンタービル セミナーホール	平林真実	文化活動 パフォーマンス・上演
清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 2023	2023.04.22 — 06.18	清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 実行委員会、岐阜県（主）、岐阜県美術館（場）	大久保美紀	展示
風土	2023.05.03 — 06.18	アートラボあいち（場）	瀬川晃	展示
florian gadenne + miki okubo「大きな／小さな生き物?!視点を変えればおもしろい」	2023.05.20	清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 実行委員会、岐阜県（主）、岐阜県美術館（場）	大久保美紀	ワークショップ
春日森の文化博物館 2023企画展「河合智子森の／バロック」	2023.05.20 — 06.25	春日森の文化博物館（主・場）	瀬川 晃	文化活動 制作・開発・デザイン
第4回空宙博ジュニア宇宙博士認定講座	2023.05.21 — 08.06	岐阜かかみがはら航空宇宙博物館（主・場）	赤羽亨　高森順子　桝井孝暢	共同研究 産学官連携
大人のためのブックトーク	2023.05.27 — 翌03.30	岐阜県図書館（主・場）	小林昌廣	文化活動 フォーラム・講演
TOKYO MELODY 1984　坂本龍一図書資料展	2023.05.29 — 07.24	情報科学芸術大学院大学［IAMAS］附属図書館（場）	松井茂　渡辺基尚	文化活動 展示
ガムラン公演　『花のみち』	2023.06.09	熊本城ホール + オンライン（場）	小林茂	学会 研究・リサーチ
「アイデアスケッチ」に関するミーティング	2023.06.15	三菱鉛筆株式会社経営企画室	鈴木宣也　赤羽亨　高森順子	共同研究 相談
日本記号学会第43回全国大会	2023.06.17— 06.18	東海大学（場）	大久保美紀	学会
歌舞伎を観るということ 完結編（ゲスト：町田康）	2023.06.17	村国座（場）、公益財団法人かかみがはら未来文化財団（主）	小林昌廣	文化活動 フォーラム・講演
NxPC.Live vol.63 HARDPIA	2023.06.17	情報科学芸術大学院大学［IAMAS］3F ギャラリー	平林真実	文化活動 パフォーマンス・上演
花習塾トークプログラム「紬の会・特別編 thread-44」	2023.06.24	花習塾（主）、ヒューリックホール京都（場）	小林昌廣	文化活動 フォーラム・講演
NxPC.Live Vol.64 Proof of X x NxPC.Lab	2023.06.25	代官山SALOON, Proof ox X, NxPC.Lab	平林真実	外部連携 パフォーマンス・上演
国際メディアコミュニケーション研究学会	2023.07.12	International Association of Media and Communication Research（主）	金山智子	学会 研究・リサーチ
千葉県誕生150周年記念事業 房総の海をめぐる光と影とアート展 クワクボリョウタ《コレクションネット》	2023.07.19 — 09.18	千葉県立美術館（主・場）	クワクボリョウタ	展示 文化活動
SUPER DOMMUNE ザ・プロデューサー・シリーズ『三輪眞弘がひらく「ありえるかもしれない、ガムラン」』	2023.07.21	DOMMUNE（場）	三輪眞弘　前田真二郎 松井茂	パフォーマンス・上演
NxPC.Live Vol.65 流せ、ソ〜〜〜メン	2023.07.22 — 07.23	IAMAS 3F gallary 1	平林真実	文化活動 パフォーマンス・上演
第6回「人工知能の時代の芸術——「表現」とはなんだろうか？」	2023.07.23	メディア表現学研究会	大久保美紀　小林 茂 平林真実　松井茂	研究・リサーチ フォーラム・講演
イアマスこどもだいがく2023	2023.07.29	大垣市　情報科学芸術大学院大学［IAMAS］（主）、ソフトピアジャパン・センタービル3F IAMAS ギャラリー 1（場）	鈴木宣也　赤羽亨　高森順子	共同研究
フォーラム「Art for Well-being 表現とケアとテクノロジーのこれから」	2023.08.07	文化庁、一般財団法人たんぽぽの家、九州大学大学院芸術工学研究院長津研究室（主）	小林茂	研究・リサーチ フォーラム・講演
タレスの刻印@藤橋城	2023.08.11 — 08.20	鶴見亭特設会場（場）	赤松正行	展示 文化活動
オンライントークイベント・配信「異なるスパイス（研究）を混ぜれば、驚きの味が！学際研究のチカラを探る」	2023.08.23	オンライン（場）	小林茂	文化活動 フォーラム・講演
サントリーホール サマーフェスティバル 2023 ザ・プロデューサー・シリーズ　三輪眞弘がひらく「ありえるかもしれない、ガムラン」	2023.08.25 — 08.27	サントリーホール（主・場）	三輪眞弘	パフォーマンス・上演
エンタテインメントコンピューティングシンポジウム	2023.08.30 — 09.02	東京工科大学、情報処理学会	平林真実	学会 研究・リサーチ
Ars Electronica Festival 2023 – Who owns the truth?	2023.09.06 — 09.10	POSTCITY、オーストリア・リンツ	ホアン・マヌエル・カストロ	展示 文化活動

名称	開催時期	場所・主催・共催・出版社・その他	担当教職員	カテゴリー
映画『ラジオ下神白ーあのとき あのまちの音楽から いまここへ』上映会・トークイベント	2023.09.15	みんなの森 ぎふメディアコスモス（場）	金山智子　吉田 茂樹 松井茂	文化活動 ワークショップ
書籍『坂本龍一のメディア・パフォーマンス ー マス・メディアの中の芸術家像』	2023.09.26	フィルムアート社（出）	松井茂	出版・寄稿
「掃除ポイエーシス」から考える次なる「Maintenance Poiesis」のための説明会	2023.09.30	ETHICA（場）	松井茂	文化活動 フォーラム・講演
書籍『ことばの共同体』	2023.10.01	あわ居（出）	瀬川晃	制作・開発・デザイン
ケミカルなAIが実現する、分子サイバネティクスの未来	2023.10.03	Wired Japan	ホアン・マヌエル・カストロ	掲載 研究・リサーチ
山形国際ドキュメンタリー映画祭2023 インターナショナル・コンペティション	2023.10.05 — 10.12	山形国際ドキュメンタリー映画祭（主）	前田真二郎	上映
美学会第74回全国大会	2023.10.14 — 15	慶応義塾大学（場）	大久保美紀	学会
METAMORPHOSE '23 会場インスタレーション	2023.10.14 — 15	遊RUNパーク玉穂	平林真実	展示 文化活動
IAMAS ARTIST FILE #09 <方法主義芸術> —規則・解釈・（反）身体	2023.10.20 — 11.17	岐阜県美術館、情報科学芸術大学院大学［IAMAS］（主）、岐阜県美術館（場）	三輪眞弘　松井茂 大久保美紀　前田真二郎	展示 文化活動
NxPC.Live Vol.66 KYOKUMEN その局面に直面せよ	2023.10.21	高松市やしまーる	平林真実	文化活動 パフォーマンス・上演
書籍『配信芸術論』	2023.10.25	アルテスパブリッシング（出）	三輪眞弘　前田真二郎 松井茂	出版・寄稿
The 36th Annual Conference of the Society for Literature, Science and the Arts	2023.10.26 — 29	アリゾナ州立大学	ホアン・マヌエル・カストロ	学会 研究・リサーチ
メディコス広場 メディアラボ製作ワークショップ	2023.10.28 — 11.26	岐阜市、情報科学芸術大学院大学［IAMAS］（主）、みんなの森 ぎふメディアコスモス（場）	赤羽亨　高森順子	地域連携 ワークショップ
ユリイカ2023年12月臨時増刊号　総特集＝坂本龍一 1952-2023	2023.11.01	青土社（出）	三輪眞弘　松井茂	出版・寄稿
ファルマコンの再生：生の祭壇	2023.11.02 — 19	アトリエみつしま（場）	大久保美紀	展示
2023 Advanced Imaging International Festival	2023.11.10 — 12	オンライン（場）	赤松正行	フォーラム・講演 研究・リサーチ
第47回AI美芸研「方法芸術とAI美学芸術」	2023.11.11	岐阜県美術館（主・場）、情報科学芸術大学院大学［IAMAS］（主）	大久保美紀　三輪眞弘	フォーラム・講演
多文化共生のサポートとなる制作に関わるヒアリング	2023.11.15	岐阜県庁外国人活躍・共生社会推進課、株式会社大広	鈴木宣也　赤羽亨	相談 共同研究
特別講義「Les Immatériaux展とは何か——Jean-Louis Boissier & Liliane Terrier」	2023.11.16 — 04	メディア表現学研究会	大久保美紀　小林 茂 平林真実　松井茂	フォーラム・講演 研究・リサーチ
glow – in progress	2023.11.17 — 29	新宿眼科画廊（場）	赤羽亨	展示
INNOVATION WORLD	2023.11.24	J-WAVE（場）	赤松正行	出演
場所・感覚・メディア ー「Sonic Interface」	2023.12.01 — 03	ビッカフェ（場）	前林明次　小林孝浩	展示 文化活動
岐阜おおがきビエンナーレ2023〈方法／Method〉	2023.12.07 — 10	情報科学芸術大学院大学［IAMAS］、岐阜県、大垣市（主）	三輪眞弘　松井茂 大久保美紀　前田真二郎	展示 文化活動
書籍『1500年続く山の集落から学ぶ ー人新世におけるコミュニティ・レジリエンス』	2023.12.15	さいはて社（出）	金山智子　吉田 茂樹 小林孝浩	出版・寄稿
ゲーム機のカセットやカードの思い出を語ろう	2024.01.08	みんなの森 ぎふメディアコスモス（場）	吉田茂樹	ワークショップ 文化活動
The Art-Science Symbiosis	2024.02.14	Springer International Publishing	ホアン・マヌエル・カストロ	掲載 研究・リサーチ
NxPC.Live Vol.68	2024.03.20	Circus Tokyo	平林真実	文化活動 パフォーマンス・上演
IAMAS TALK SESSION-Fab Meetup vol.10	延期	Fabcafe Nagoya	鈴木宣也　赤羽亨　高森順子	産学官連携 ワークショップ

■ 詳細情報

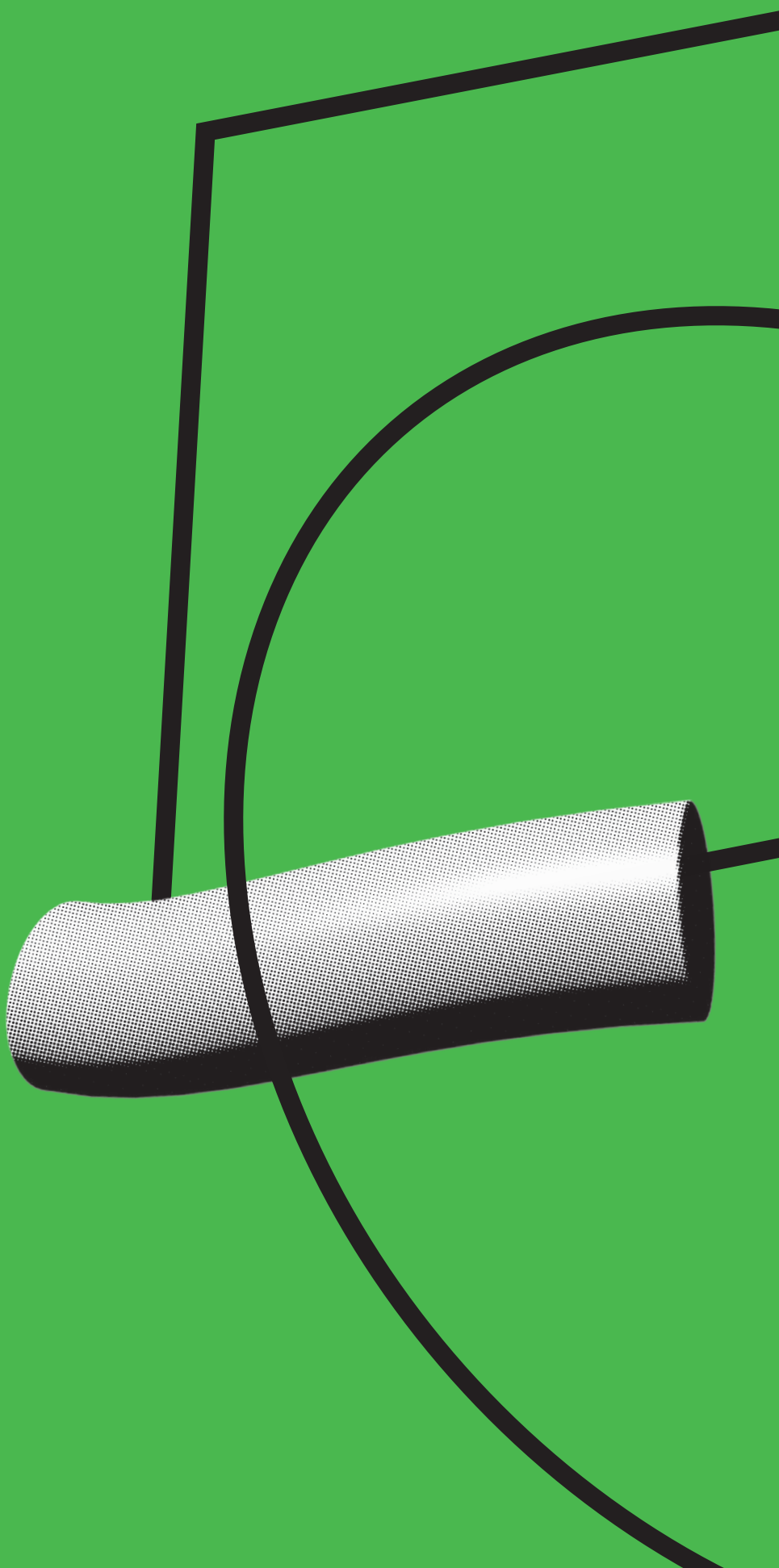
各活動の詳しい情報は左記の QR コードからご確認いただけます。

IAMAS RCIC Annual Report 2023
- IAMAS 産業文化研究センター　年次報告書 -

2024年2月発行

監修 : 赤羽 亨（RCIC センター長・IAMAS 教授）
編集 : 高森順子（RCIC 研究員）
デザイン : 近藤崇司　山岸舞子（GOCCO.）
発行 : IAMAS産業文化研究センター（RCIC）
印刷 : ニホン美術印刷株式会社

IAMAS産業文化研究センター（RCIC）
〒503-0807
岐阜県大垣市今宿6丁目52-18 ワークショップ24 5階
https://www.iamas.ac.jp/rcic/
rcic@ml.iamas.ac.jp





RCIC

Research Center
for Industrial Culture
情報科学芸術大学院大学産業文化研究センター